

会(川瀬泰淳会長)はこのほど、平成17年の精製リサイクル数量調査結果を発表した。

今年5月1日現在の溶剤精製リサイクル業者数は54社で、リサイクル原料は28万8169tとなり前年比1・3%増加した。一方、精製リサイクル量は塩素系溶剤が16・3%減の2万298t、非塩素系溶剤が18万3328tで0・6%減となり、リサイクル量全体では2・4%減の20万3626tとなった。

また、同じプロセスで再利用する循環型リサイクル率は全体の65%と約3分の2を占め、他のプロセラ(他方面で利用、エネルギーとして利用)である非循環型リサイクル率を大きく上回っている。

2001年に施行されたPRTR法や2005年の京都議定書の発効、今年4月に施行されたVOC排出規制など、溶剤にかかわる法制度の整備により、これ

年間130万t以上もの溶剤の適正処理や回収・リサイクルについての検討が関連する各企業で盛んに行われるようになってきた。

しかし同工業会では、今回の調査でリサイクルされた数量が20万t余りにとどまっているのを見て、大気へ放散されていた溶剤は回収、リサイクルされたのではなく、むしろ、設備投資金額の低い燃焼法などに

ないかと報告している。なお、塩素系溶剤は、環境負荷低減への配慮から使用量が減少しているものが見られ、それに伴いリサイクル量も減少している。

この調査は、同工業会が国内で溶剤精製リサイクル事業を行っている企業54社に対し電話、ファクスによる回答を得たもの。有効回答率は83・3%で、調査期間

は17年1月1日から12月31日。集計方法は回答企業のデータから不明部分の数量を推定し算出した。

5月21日にアジア太平洋地域10カ国で一斉に行われたウォーク・ザ・ワールドプログラムに参加した。また、これを機にアジアでの飢餓撲滅に必要な寄付金も募られた。

同社は昨年3月にアジア、韓国、シンガポール、

「2006ウォーク・ザ・ワールドFight Hunger」が同日午

肌になる。そのため、粉体塗装などによる高意匠塗装が欠かせず、自動車ボディと同様の高度な塗装性能が要求される。粉体塗装を

O社長の久保田廣氏が「粉体塗料、粉体塗装に関する世界の最新情報No.159」及び「粉体塗装関連特許速報(54)」で最新動向を紹介した。

夕の情報などを詳細に紹介した。

AEROSILブランドの同社製品は粉体塗料では顔料粉砕過程で粉砕助剤としてまぶすと、顔料の表面に付いて顔料同士を再凝集を防ぐ。また、流動性や貯蔵安定性の改善に役立つなどと強調した。

「2006ウォーク・ザ・ワールドFight Hunger」が同日午

中心に塗装機を使った塗装工法やマスキング、今後の技術課題などを詳細に説明し、注目された。

そのほか、元米国IEC

戻るコートを乗し込んだ。石舟・三石舟」は江戸川の幕府参府の過書船で当時物や人を大阪へ運ぶ重要な交通手段だった。

平成11年の伏見開港400周年を記念して石舟・三石舟を復元し、水辺を彩った年づくりが進んだ

## 流動性付与の外添剤 自動車ホイール塗装も



最新情報を傾聴

粉体塗装研究会(竹内学会長、事務局日本パウダークーティング協同組合)

は今年3回目のセミナーを13日午後1時15分から、東京都品川区東大井の大井町

きゅりあんで約50人を集めて開いた。

日本アエロジルアプライドテクノロジークループの諸星敦志氏は「粉体塗料の流動化剤「ブユームドリリカ」について」で、粉体塗料の外添剤として流動性などの付与のために使われるブユームドリリカについてその製法や特徴、各種データ

自動車用アルミホイールはOEM生産だが、アルミ鑄物のためさらさらした鑄

今回のテーマは「勝ち残る企業経営」で、講師には元気塾主宰で経営ジャーナリストの正田文明氏が招かれた。

正田氏は、中小企業には厳しい状況の中で、元気のあふれる企業は、提案力と皆で知恵を出し続けられるものがあると指摘。顧客の期待値を上回る提案を次々と出せることが重要で、提案力がない、言われたままやるのではもうその社は選ばれないとした。知恵も組織ぐるみで出し続けられ、好不



## セントラル会 勝ち残る企業経営 東京で講演会開く

セントラル会(石井久夫会長)は、恒例の総会講演会を8月23日午後3時から東京

現在、中小企業が大きな変革に身を投じている時代を迎えていること、そのためには、能力では適わないので、心を育成することがあるとした。人材育成のためには、やる気を削ぐ要因を取り除くことが必要と、キー・ポイントとして機能する3多能人にする、小事として

最後に、経営には教員は、心で感得されて、自社に最適なシステムを構築することが大切であると、

セメント瓦の洋 洋風コンクリート瓦

サン Sun 瓦 E-ES